

創立100周年記念誌

ダイジェスト版



NAKOGAWA NISHIKI
since 1912



加古郡立高等女学校

兵庫県立加古川高等女学校

兵庫県立加古川西高等学校



創立100周年記念式典
平成24年10月20日(土)

ごあいさつ



兵庫県知事

井戸 敏三

兵庫県立加古川西高等学校が創立100周年を迎えられました。心からお祝いをします。

創立以来、校訓「責任 努力 友愛」のもと、生徒の個性や創造力を伸ばす教育を展開し、3万人を超える有為な人材を送り出してこられました。近年は、国際理解教育のリーダーとなる学校づくりにも力を注がれています。関係の皆様のご尽力に改めて感謝します。

兵庫も人口減少県となり、少子・高齢化や地域格差の拡大が同時進行しています。円高やデフレの長期化、経済社会活動のさらなる世界化など、様々な課題に直面しています。今こそ、こうした課題に果敢に挑み、活力にあふれ、豊かさの実感できる兵庫を創っていくときです。

その原動力は人の元気。兵庫から世界へ力強く羽ばたく人材、生まれ育った地域を守り支える人材など、次代の人材を育てていかなければなりません。

それだけに、100周年を機に「無限の可能性を求めて」をスローガンに掲げ、社会に貢献できるリーダーの育成に一層の力を注いでいこうとされていることは、本当に心強いことです。

流れて止まぬ加古川のように、これからも県立加古川西高校から夢に向かって挑戦する若者が数多く巣立っていくことを期待しています。



兵庫県教育長

大西 孝

兵庫県立加古川西高等学校が創立100周年を迎えられましたこと、心からうれしく思います。

明治45年、加古郡立高等女学校として開校された本校は、昭和23年、学制改革に基づく旧制加古川中学校との折半交流により共学の県立加古川西高等学校としての歩みを新たに始め、「文武両道」の精神と「責任 努力 友愛」の校訓のもと、各界での活躍めざましき有為な人材を世に輩出してきました。

県教育委員会では、「こころ豊かな人づくり」をめざし、夢や志を抱き未来を切り拓く子どもたちの「生きる力」を育む教育を推進しています。県立加古川西高等学校が「人格の育成」を教育目標に掲げ、「世界にはばたくこころ豊かな人づくり」を目指して21世紀にふさわしい「地域に開かれた特色ある学校づくり」を推進されておられることを大変頼もしく思います。

県立加古川西高等学校が、創立100周年という大きな節目を契機に、地域社会はもとより世界的視野に立って活躍するリーダーを育成する学びの場としての役割を担い、一層の発展を遂げられますことを祈念します。





校長
橋本英俊

本校は、本年ここに創立100周年の記念すべき年を迎えることができました。本校をここまで育てていただいた旧職員、同窓会、育友会、地域の皆さん、そして県教育委員会等関係者の皆様にお礼を申し上げます。

さて、本校は前身の高等女学校時代には「良妻賢母」を、また県立加古川西高等学校では「人格の育成」を教育の目標として一貫して人づくりを行い、東播磨はもとより兵庫の教育を担ってまいりました。この間、昭和25年に設置された歴史と伝統ある商業科が昭和49年に募集停止となり、昭和38年には火災で校舎の大半を焼失し、また昭和45年には大学紛争に象徴される時代の流れの中で苦しみ、悩む時期もありましたが、それを力としてさらに大きく成長することができました。

100周年を機に過去から学び、「責任 努力 友愛」の校訓のもと無限の可能性を求めて、未来に対して希望を持ち、大きく羽ばたき続ける西高でありたいと思っています。平成27年には通学区域が改編されます。さらに地域の方々に信頼される魅力ある学校づくり、信頼される学校づくりを教職員一体となって行ってまいりますので、今後ともご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



創立100周年記念事業実行委員長
筈谷研造

母校加古川西高校の創立100周年を心からお祝い申し上げます。

我が母校は、明治45年（1912年）の設立以来100年、明治、大正、昭和、平成の長きにわたり、国の仕組みや教育制度の変わる中、力強く歩んできました。

この間に、母校で学んだ生徒は32,000人を越え、様々な分野でご活躍中です。これらの会員の中に、4世代が西高という瀧川様ご一家がおられます。女4回（しづ子様）、女28回（芳子様）、高24回（千尋様）、高47回（真紀様、健一様）です。このような縦の繋がりと共に、横の繋がりで、市民の十数分の一が松筠同窓会員です。

又、同窓会組織が出来たのは大正4年です。同窓会長は歴代校長が兼務でしたが、昭和24年に女1回生の小南かほる様が初代会長に就任され、昭和31年に同窓会館が建築されました。昭和34年には私、筈谷研造が、2代目の会長になり、以後53年間にわたり会長を務めさせていただきました。

そして今年100周年を記念して、母校と同窓会の一体化を図るべく、同窓会館を校内に建て、現在の土地建物は先輩の残して下さった遺産としてそのまま残して、後輩の育成に役立てていくことにいたしました。

ここに母校100周年行事にご協力いただきました皆様に、心から厚くお礼申し上げます。



育友会長
松尾博史

秋麗の吉日、兵庫県立加古川西高等学校が創立100周年を迎えられましたことに、保護者を代表いたしまして心よりお祝いとお慶びを申し上げます。

この度、創立100周年を迎えるにあたり、学校、同窓会、後援会、そして育友会が一体となり、記念事業実行委員会を組織して、「はばたけ西高！100周年を機に ～無限の可能性を求めて～」をスローガンに100周年事業に取り組んでまいりました。生徒たちによるシンボルマーク、記念歌の作成、文化祭での卒業生による記念コンサート、また夏にはニッケレボスにおいて書道部・美術部による100周年記念展を開催し、多くの反響があり大成功に終わりました。そして記念誌の発刊、さらに記念事業の一環として同窓会館を新たに建設中です。念願であった校内への同窓会館建設によって、これからは今まで以上に生徒たちも有意義に会館を使用できるようになり、西高生と同窓会のつながりがより一層深まり、心のふれあう場となることを確信しております。

最後に本記念事業実施にあたり、ご尽力いただきました関係各位の皆様心より御礼申し上げますとともに、加古川西高等学校の益々のご発展を祈念いたします。

100年の足跡

前史

明治20年4月加古郡印南郡聯学区加古川高等小学校を印南郡加古川町称名寺に設置。その後、明治45年3月加古川高等小学校は分離解散し、各町村立小学校に高等科を併置した。沿革史によると、同年2月20日に加古郡立加古川高等女学校設立認可、4学級200名とある。

I 加古郡立高等女学校

(1) 女子教育の殿堂

加古川高等小学校の校舎全部を充用して、明治45年4月1日加古郡立高等女学校が設置された。

同年4月22日入学試験を経て入学を許可された生徒、1年・2年各50名、計100名で入学式、同5月19日には開校式が挙行された。

こうして、本校は印南郡の一角加古郡鳩里村木村字木寺5の2（現在の加古川税務署敷地）に女子教育の殿堂として、つつまじやかに誕生したのである。



高女1回卒業生

(2) 教育目標

当時の教育課程は定かではないが、国語、数学、理科のほか家事、裁縫、体操などの時間があったようである。また、高い水準の教科指導や厳しい中にも愛情のこもった躰を受けた思い出が今も卒業生の口から聞かれる。特に、女子としての婦徳の涵養に徹底したものがあつた。当時の教育目標は「良妻賢母」であり、これは生徒各自の自覚にまで高まっている。

(3) 校歌の制定

開校翌年の大正2年、俗に郡立高等女学校時代の校歌と称される本校最初の校歌が制定された。作詞は大

正2年4月赴任された菅野（改め齊藤）けい先生（国語）の手になるもので、加古の清らかな流れと尾上の常磐の松の緑に印南乙女の清らかな心と変わらぬ操にたくえて、ことあるたびに、友が集うたびに斉唱しては心の高鳴りを覚えつつ同胞の絆を深めていった。



加古郡立高等女学校 校歌

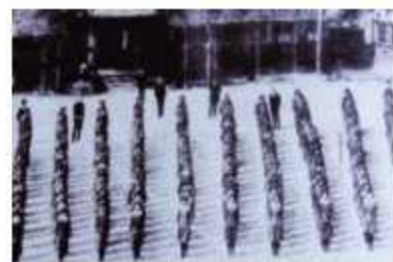
(4) 同窓会成立

本校創立より1年後、大正2年4月に入学試験が実施された、その結果1年54名が入学を許可され、2年3名、3年1名の編入学がそれぞれ許可された。翌3年4月9日に第4回生を迎える第3回入学式が挙行され、この時をもって、明治45年本校設立認可の条件である4学級、定員200名を充足してその機構を整えた。次いで大正4年3月20日第1回卒業証書授与式挙行、初の卒業生47名を送り出した。同年4月29日、いち早く同窓会の組織が成立し、ここに松筠同窓会が発足した。

II 兵庫県立加古川高等女学校

(1) 県営移管

本校は大正11年4月8日兵庫県立加古川高等女学校と名称を改め、それに神戸、姫路各県立高等女学校と大正14年新設の県立第2神戸高等女学校と併せて大正末には県下で13の県立高等女学校が並び立つ事になった。同年3月14日県立移管式典が華々しく挙行され、その日生徒一同に記念品として白扇が贈られた。



県営移管式

(2) 創立10周年

県営移管と時を同じくして迎えた創立10周年を心から祝福して盛り上がった行事が実施された。10月29日第1回音楽会を加古川公会堂で、来賓始め父兄、一般の人を招待して催した。



県立加古川高等女学校 正門

(3) 講堂落成音楽会

当時の木造建築での最新式近代様式を誇った雨天体操場兼講堂が新築された。学校の南に位置して採光通風申し分なく、広い内部はゆったりと落ち着いた雰囲気に包まれ、ここで儀式、講演、講話、集会、日々の体育が行われた。この講堂の竣工を記念して大正12年6月14日講堂落成演奏会が同窓会主催のもとに行われた。



講堂落成記念

(4) 校章制定

県立移行後の大正13年に校章が制定された。意匠は仲上先生（図画）考案に成る直径95mmの円形七宝焼である。これは紫紺上部に「松」、下部に清流加古の「川」を共に白であしらひ、中央に「女」を松が枝に見立ててえんじでしつらう。七宝の落ち着いたきと清楚可憐の美がある。



当時の校章ピン



図案化した校章

(5) 校歌の改変

郡立時代に作られた校歌は創立時代の発足の気概を示すものであった。ただ、県立高等女学校として歴史も経、規模も大きくなった当代、それにふさわしい校歌が望まれた。この意味から大正14年10月尾上八郎作詞・島崎赤太郎作曲による兵庫県立加古川高等女学校校歌が完成した。郷土の歴史と自然の中に生きる印南の乙女の自覚と希望を歌い込んだこの歌詞は本校にふさわしい作歌となった。



県立加古川高等女学校 校歌

(6) 校旗制定

大正末には県下に13の県立高等女学校が並び立った現状から、外部への動きも加わって自校意識が高まり、各学校で象徴的存在としての校旗が制定されるに至った。本校の校旗は仲上先生の意匠考案による校章を縫い取ったもので、昭和4年5月19日の開校記念日に校旗制定式が盛大厳粛に挙行された。校旗の地は緋色、中央に金糸で隔取りの中に校章をそれぞれの色糸で縫い取り、縁重ね旗紐通し穴の間に学校名を金糸で刺繍し、金糸の縁飾りをつけた縦67cm、横99cmの女学校にふさわしい可憐な校旗に仕立てられた。



校旗制定式



校旗を掲げて

Ⅲ 兵庫県立加古川西高等学校

(1) 加古川西高誕生

新制高等学校は後期中等教育を担当し、旧制中等学校に比べると形態・内容・修業年限に大きな変化があった。旧制中等学校は新制高等学校に切り替えられることになり、本校は昭和23年4月1日に県立加古川高等女学校から県立加古川西高等学校に改称された。



正門(昭和24年)

(2) 折半交流

戦後の学制改革の根幹の1つである男女共学の実施が急がれ、加古川東西両高校の職員、生徒の折半交流が昭和23年7月1日に行われ、両校ともに学級再編成が行われた。この折半交流の対象となった生徒は高校2年生～4年生である。

(3) 教育目標

新制高等学校となった本校は新しい時代の高校教育に即応する教育目標設定の必要に迫られ、昭和24年9月5日、目標「人格の育成」、三綱領(校訓)「責任・努力・友愛」に決定した。また、



実践項目には、職員・生徒の今後の方針がしっかりと明示されており、その後の加古川西高等学校の文化・

運動クラブの活躍や進学面での実績の向上など、現在につながる礎となったことは言うまでもない。

(4) 校章・校旗・校歌

新制高等学校の校章は高校2回生の堀田昌夫氏のデザインによるもので、その由来は河辺の松に「高」を載せて、その理想を高く掲げていることを象徴している。河は加古川の流れ清くして、かつまた永久の真理を探究する高校生を示し、松は「ときわ」、緑葉のごとく志操堅固にして、しかもすくすくと伸びゆく若人の生気を象徴している。校旗は昭和24年11月校風刷新週間が実施され、校旗・校歌について、職員会議で審議され、校旗の色について「赤」色に決定されたが、その後生徒にも意見を訊ね、今の「朱」色に決定した。校歌は、作詩・作曲界の大御所的存在であった、西条八十、信時潔両先生に依頼するために本校職員が上京し、翌25年3月4日、本校へ送り届けられた。



校章



校旗

(5) 商業科の設置

新制高等学校の目標は中学校に於ける教育の基礎の上に心身の発達に応じて高等普通教育及び専門教育を施すこととして、公民的・社会的資質の向上、個人的資質の最大限の発達、職業的資質の錬磨の三点とされた。学科は高等普通教育を主とするものと、農・工・商・水産・家庭などの内容を主とするものとに分けられた。本校では普通科以外に昭和25年4月1日に商業科が設置され、高校5年生が商業科の1年生として本校に入学した。



タイプ部

(6) 火災による校舎焼失

昭和38年11月12日午後10時45分に第2棟1年8組教室より出火し、第2棟（普通教室）、第3棟（特別教室、普通教室）計26教室を焼失した。出火に際し、加古川消防署をはじめ付近の消防団、同窓生、在校生、育友会員、職員が駆けつけて消火に当たった。

(7) 校花・校木の制定

昭和40年9月1日、校花として「牡丹」、校木として「常松」が定められた。校花「牡丹」は明治45年本校創設の頃よりの記念の花であり、昭和16年高等女学校の旧校地より現校地の玄関脇に移植され、毎年花を咲かせていたものを校門北にあった図書館前に移し、「牡丹庭園」とした。校木「常松」は昭和16年現校地に移った時に4mの常松が植えられたもので、本館と普通教室棟の間にそびえ立っていた。また、本校が現地に移ってから30年のあいだ風雪に耐え、特に昭和38年の火災によって被害を受け、半身不随になるも見事に立ち直った雄姿は遠く校外からも目に入り、本校生が在学中の勉学に、また、将来の社会生活で活躍するときの模範として最もふさわしいものである。ただ、校舎改築のうちに、初代校木は切られ、現在二代目の校木となっている。



(8) 創立70周年

昭和57年10月24日には創立70周年記念式典が挙行了された。晴天に恵まれた日曜日、午前10時より始まった式典は、「君が代」斉唱に始まり、物故者追悼、学校長式辞、来賓挨拶、70周年記念事業実行委員長挨拶、育友会長挨拶、生徒代表挨拶と続き、加古川高等女学校校歌、加古川西校等学校校歌を高らかに歌い、約1時間の式典の幕を閉じた。



(9) 新体育館竣工

元号が変わった平成元年1月19日には昭和という時代をともに過ごした体育館兼講堂、格技場、生徒集会所「白雲会館」が取り壊された。3月31日には県下でも最大級の体育館工事が完成し、5月13日に体育館竣工記念式典が行われた。体育館舞台の緞帳は、同窓会から寄贈されたもので、松筠同窓会会員によるデザインで、4.5m×17mのつづれ織り。真っ赤な朝焼けの空に太陽が勢いよく昇り、地上には高御位山の山並み、播州平野、加古川の清流、松筠の松といった豪華なものである。



(10) 創立90周年

平成14年10月26日、加古川市民会館において創立90周年記念式典、記念講演、祝賀会が催された。

(11) 平成23年～平成24年

創立100周年への気運を高め、広く世間に知って貰うための広報活動が進み始めた。手始めに、シンボルマークを生徒から公募し、そのシンボルマークをあしらったハンドタオル、靴下、クリアファイルをPRグッズとして販売を開始した。



KARUGOJIMA NISHIENS
since 1917

シンボルマーク



ハンドタオル

創立100周年まで1年を切り、11月9日（水）に加古川市民会館大ホールにおいて、プレ100周年企画として桂米朝一門による古典落語を鑑賞した。



古典落語の解説



落語体験

3月下旬には、100周年の横断幕が正面玄関横に設置された。



100周年記念歌を作詞・作曲の各部門別に生徒から公募していたが、4月に完成し全校生徒に披露した。



5月27日高砂球場において、100周年記念野球大会が行われた。



校長による始球式



東洋大学附属姫路高校と対戦

6月の記念文化祭においては、卒業生6名による記念コンサートも開催された。



7月にはニッケレポス・センタープラザにおいて100周年にちなんだ書道・美術の作品展を実施した。

